

ただいま。おじいちゃん。

相原 潤あい はら じゆん

「ただいま。」

と言うと、え顔で一番に出むかえてくれるのはおじいちゃんです。おじいちゃんは仕事の中でも、手を止めて玄関まで出てきてくれます。そして、顔を見て大きな声で、

「おかえり。潤ちゃん。」

と言ってくれます。雨の日は、帰ってすぐにランドセルをふいてくれます。夏の暑い日は、冷えた麦茶を出してくれます。冬の寒い日は、温かいお湯と一緒に手を洗ってくれます。

ぼくは学校から毎日おじいちゃんの家に帰ってきます。そして、ぼくのおじいちゃんは、エンジンアです。おじいちゃんは家で仕事をしています。おじいちゃんの仕事場には、大きいパソコンや機械がたくさん並んでいます。そして玄関のすぐ横の部屋にあります。だからおじいちゃんは、ぼくが帰ったことに一番に気がついてくれます。時々、ぼくの足音に気がつき、玄関のドアの向こうでこっそりかくれて待っていることがあります。そんな時には、すこくびっくりしておじいちゃんと一緒に大わらいします。

おじいちゃんは暑い夏の日にも窓を開けて仕事をしています。

ぼくは、

「おじいちゃんはこんなに暑いのに、なんでエアコンつけんのん。」

とお母さんに聞くと、おじいちゃんはぼくが帰ってきたことに気が

がつくように窓を開けて待ってくれていると教えてくれました。ぼくは、毎日何気なく帰ってきていたけど、おじいちゃんの気持ち少し知ることができて、すこく温かい気持ちになりました。

ぼくは、四年生になり、学校から帰るのがおそくなる日が増えました。帰りがおそくなる日は、おじいちゃんの家ではなくて家に帰る日もあります。先日、家に帰ると、その日はもう帰っているはずのお母さんがいませんでした。ぼくは心細くて、一人で外で待っている時間をすこく長く感じました。そして、いつもおじいちゃんが出むかえてくれることを思い出しました。ぼくは毎日のことであるで当たり前のように思っていたけど、おじいちゃんのおかえり』は特別だと気がつきました。おじいちゃんのおかえり』は、すこく安心でき、力がわき、優しい気持ちになります。ぼくは、少しして帰ってきたお母さんと、おじいちゃんの話をとくさんしました。

ぼくのおじいちゃんは、すこく物知ります。ぼくは、おじいちゃんと二人で近くの山に登るのが大好きです。そこでは山の植物のこと、動物のこと、見上げた空のこと、おじいちゃんの子供のころのことをたくさん話してくれました。ぼくは、これからもずっとおじいちゃんの近くにいたいんです。ぼくに毎日くれている『おかえり』のプレゼントを宝物にして、これからもっと強く優しくなりたいです。おじいちゃん、明日も待っていてね。ありがとう。